

【「堀田義次郎関係文書」寄贈記念展】

# 外国貴賓のおもてなし

—英国王太子の琵琶湖遊覧—

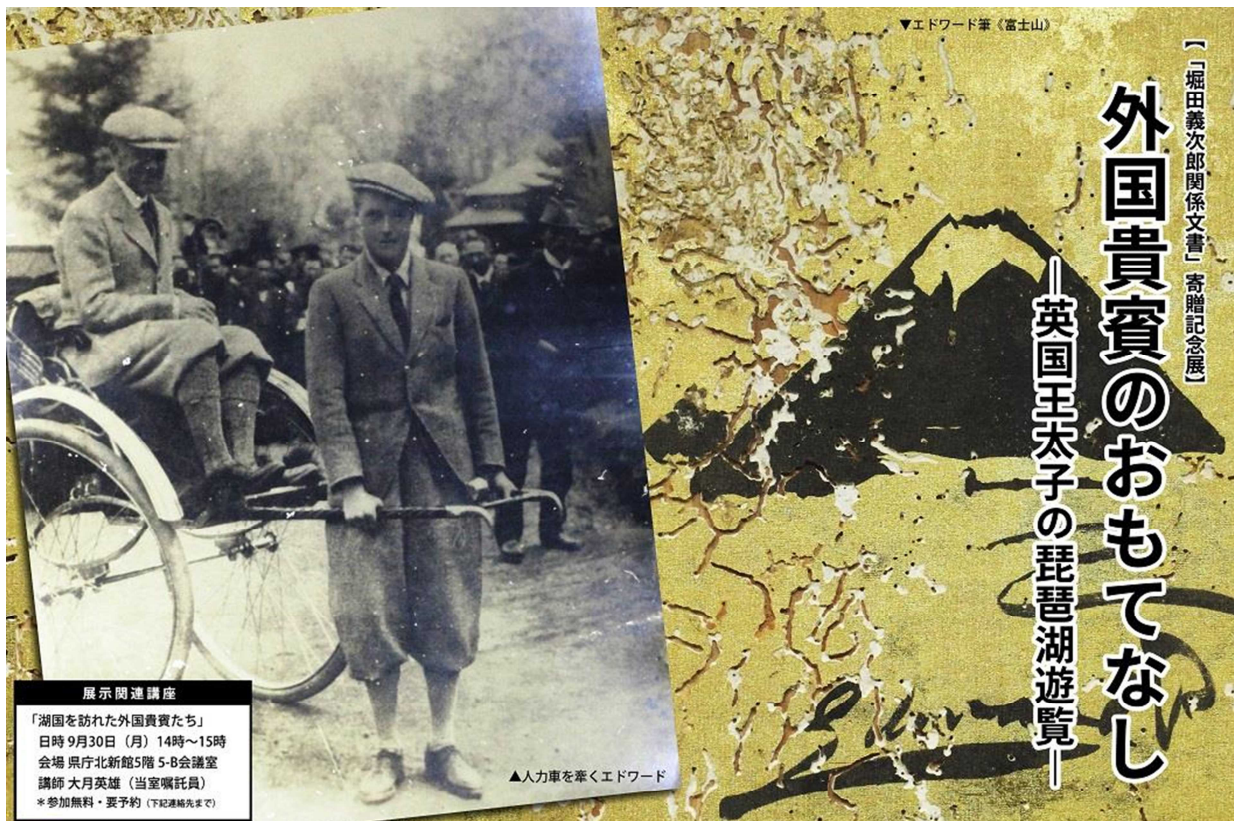
令和元年7月29日発行

編集・発行

滋賀県県政史料室

(滋賀県総合企画部

県民活動生活課県民情報室内)



滋賀県県政史料室 県庁新館3階県民情報室内 tel 077-528-3126

令和元年 7/29（月）⇒10/24（木）

平成31年（2019）4月26日、第16代滋賀県知事を務めた堀田義次郎ゆかりの史料52点を、親族の堀田清子様・綾様より本県にご寄贈いただきました。寄贈史料の中心を占めるのは、大正11年（1922）4月にイギリス王太子エドワード（エドワード8世）が来県した際の手簡や写真、記念品などです。今回の展示では、「堀田義次郎関係文書」を中心に、本県を訪れた外国貴賓の応接に関わる史料をご紹介します。

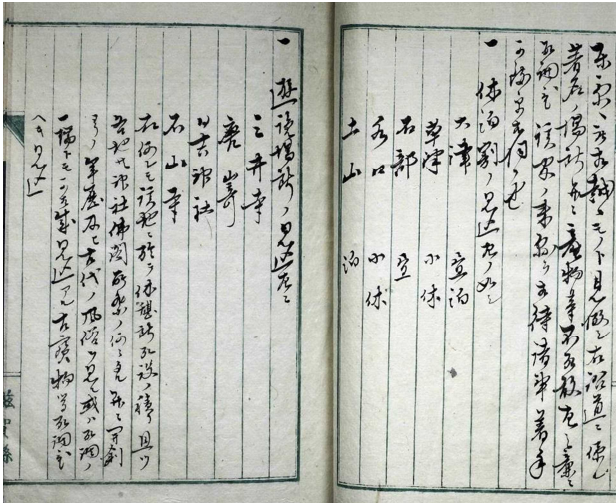
### 【展示概要】

期間 令和元年7月29日（月）～同年10月24日（木）  
会場 県政史料室（滋賀県庁新館3階 県民情報室内）  
日時 月曜日～金曜日（祝日を除く）  
9時～17時  
内容 滋賀県歴史的な文書等 26点

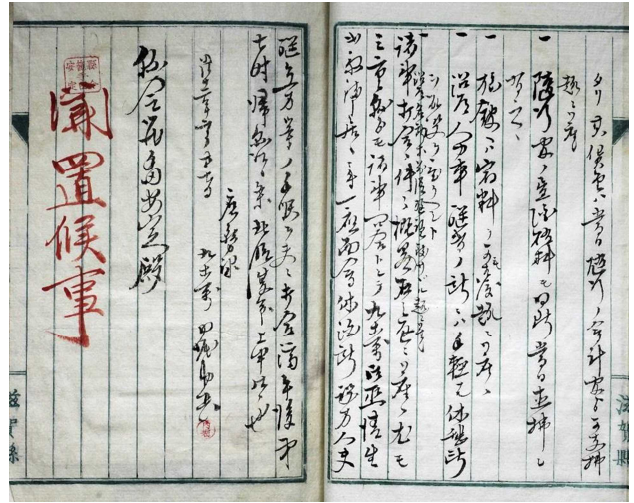
### 展示関連講座

「湖国を訪れた外国貴賓たち」  
日時 9月30日（月）14時～15時  
会場 県庁北新館5階 5-B会議室  
講師 大月英雄（当室嘱託員）  
\*参加無料・要予約（裏表紙の連絡先まで）

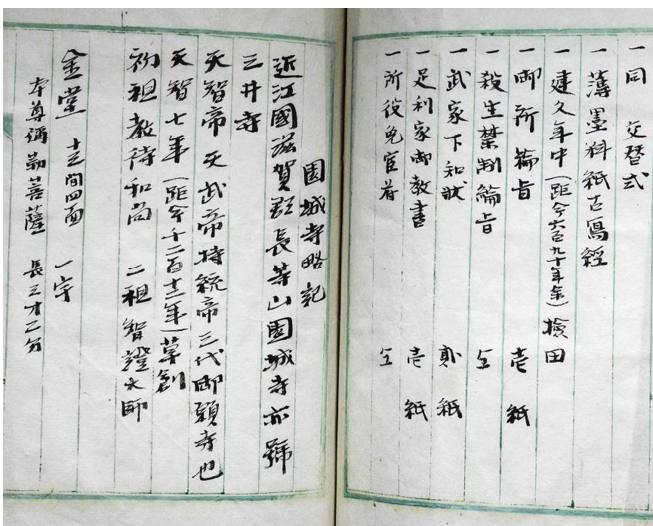




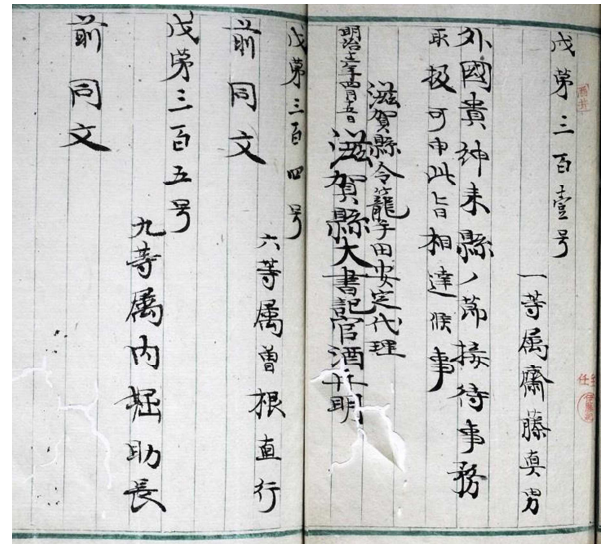
③「米国前大統領遊覧に付き伺い」明治12年4月23日  
【明か20合本2(1)】



①「建仁寺出張からの復命書」明治12年2月27日  
【明か20合本1(1)】



④「石山・三井寺・唐崎略記」明治12年5月頃  
【明か21(22)】



②「外国貴紳接待掛の任命」明治12年4月15日  
【明い107(129)】

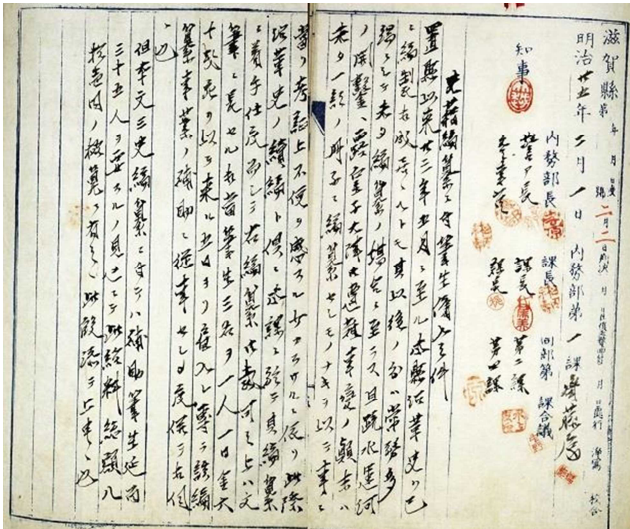
外国貴賓接待掛の設置

明治維新後、初めて滋賀県が外国貴賓への対応を迫られたのは、明治十二年（一八七九）二月のことでした。当時来日していたイギリス庶民院議員のエドワード・ジェームス・リードが、京阪遊覧後に東海道を通って帰京するので、その応接を内務省より求められたのです。県では「接待等殊二不馴」のため、庶務課駅通部の内堀助長をリードが宿泊していた建仁寺に派遣します。史料①はその復命書で、事前に必要な応接準備を報告しています。

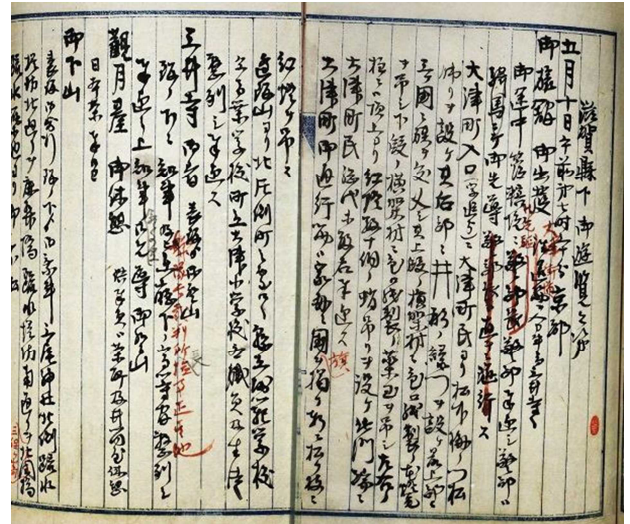
リード議員を無事に見送った翌月の四月二日、今度は太政官よりアメリカ前大統領のユリシイズ・S・グラントの応接を命じられます。早速県は、リード議員に随行した曾根直行・内堀助長を含む六名を、外国貴紳接待掛に任命しました。

史料③は、曾根・内堀より県令に宛てた伺い書です。グラント前大統領の行程が未定のなか、リード議員の前例を参考にして、京都より東海道を陸路で帰京すると想定しています。その際の遊覧場所として、三井寺（園城寺）、唐崎、日吉神社、石山寺の四か所を挙げ、各地に休憩所を設けるとともに、由緒や所蔵する宝物等を調査する計画を伺い出しました。県令の籠手田安定は、この計画を認可した上で、さらに道路の修繕も命じています。しかし当年は、コレラが流行したため、結局グラントが滋賀県に立ち寄ることはありませんでした。





⑦「史籍編纂に付筆生雇入之件」明治25年2月1日  
【明え 217 (13)】



⑤「滋賀県御遊覧之次第」明治24年5月8日  
【明か 23 (31)】



⑧「ニコライとゲオルギオスの肖像写真」  
明治24年（1891）【行政資料 564】

番	品名	名	個数	代	價
第一	鹿角	鹿角	九	拾	五
第二	鹿角	鹿角	九	拾	五
第三	鹿角	鹿角	九	拾	五
第四	鹿角	鹿角	九	拾	五
第五	鹿角	鹿角	九	拾	五
第六	鹿角	鹿角	九	拾	五
第七	鹿角	鹿角	九	拾	五
第八	鹿角	鹿角	九	拾	五
計	八個				

大津町大寺柳町  
上野卯石工門

⑥「県内物産の出品目録」明治24年5月5日  
【明か 24 合本 2 (6)】

### 大津事件の発生

明治時代に滋賀県を訪れた外国貴賓のなかで、最も著名な人物がロシア皇太子ニコライ（ニコライ二世）です。明治二十四年（一八九一）三月九日には、宮内省より滋賀県に来県の可能性が伝えられています。県はその接伴掛に、明治十四年より外国貴紳接待掛を務める矢島新之助ら六名を任命しました（後に二一名に増員）。史料⑤は、矢島が作成した遊覧行程で、定番の三井寺と唐崎が組み込まれています。当初は石山寺も検討されましたが、京都での滞在短縮により削られることになりました。

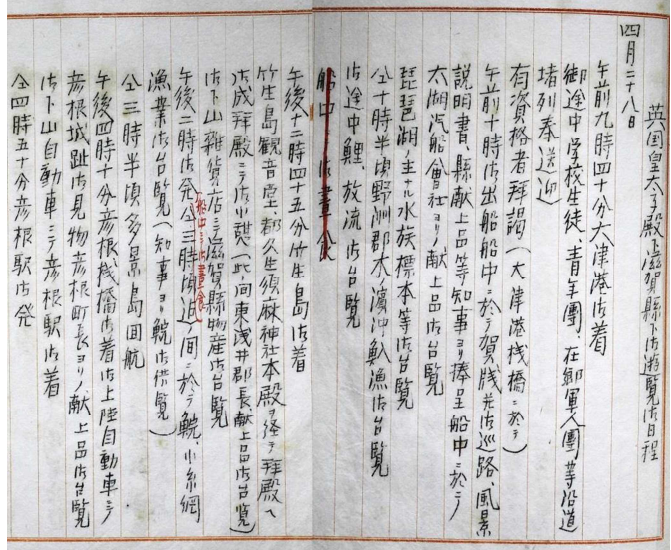
三月二十七日、県内務部はニコライをもてなすため、県内物産の出品をうながすよう郡役所に命じます。滋賀郡からは、計九品が県に提出され、五月十一日の当日は、県庁舎の収税長室で陳列されることになりました。そのうち鯉が描かれた花瓶（水二鯉図花生）八円五〇銭）は、実際にニコライが購入したようです。しかしその後、食堂で昼食を終えたニコライは、庁舎を出た直後に津田三蔵巡査に斬り付けられ、負傷してしまいます（大津事件）。

史料⑧は、ロシア皇太子ニコライと、ともに来日したギリシャ王子ゲオルギオス（ジョージ）の写真です。昭和三十年代にゲオルギオス妃マリーが、大津市で事件に関わる遺物を閲覧した際、「非常な感動」を示したことから、宮内庁を通じて贈られました。本県のおもてなしと深く関わる写真といえます。

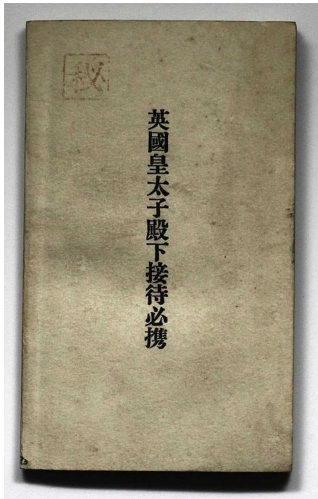




⑩「人力車を牽くエドワード」大正11年4月  
(堀田義次郎関係文書2)



⑨「英国皇太子殿下滋賀県下御遊覧御日程」  
大正11年3月頃【明お53合本2(8)】



⑫「英国皇太子殿下接待必携」大正11年  
(堀田義次郎関係文書13)



⑩「エドワードの肖像写真」大正11年4月  
(堀田義次郎関係文書4)

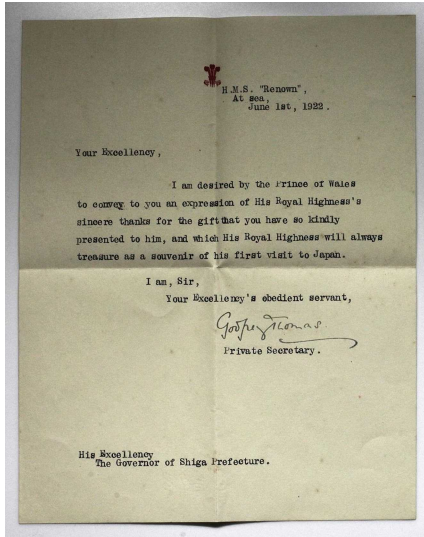
英国王太子の琵琶湖遊覧

大正十年十二月、県知事堀田義次郎は、内務省より英国王太子エドワード（エドワード八世）の来県を伝えられます。翌年一月、堀田は内務大臣官邸で開かれた打合せ会に出席。同年三月には、同省より滞在日程の細目案が送られました。その後、県が作成した史料⑨によれば、四月二十八日朝に大津港で乗船したエドワードは、野洲郡木ノ浜沖でエリ漁を見学し、昼には竹生島に到着。さらに多景島を巡り、上陸後に彦根城を見物する予定が組まれています。

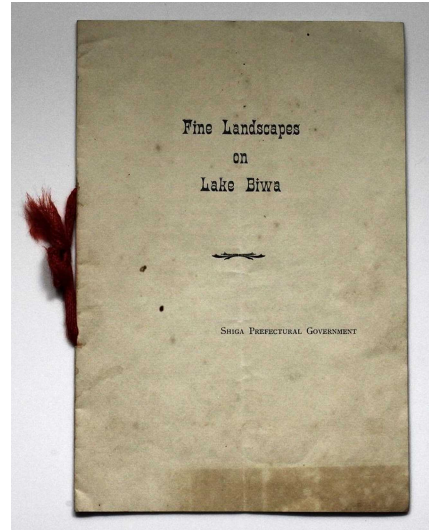
史料⑩⑪⑫は、平成三十一年（二〇一九）四月二十六日、堀田清子・綾両氏より当室に寄贈いただいた「堀田義次郎関係文書」の一部です。堀田義次郎は、大正八年四月から同十二年十月まで滋賀県知事を務めた人物で、同文書にはエドワード王太子来県時の貴重な史料も多数含まれています。大正十年五月に訪英した裕仁親王（昭和天皇）が「熱誠ナル歓迎」を受けたことから、宮内省からは、エドワードを心して歓迎するよう指示がありました。

エドワード八世は、一九三六年一月二十日にイギリス国王として即位し、同年十二月十一日まで在位した人物です。在位期間が歴代最短の三二五日であるのは、離婚歴のあるアメリカ人ウォリス・シンプソンと結婚するためでした。この行動は「王冠を賭けた恋」として知られ、映画「ウォリスとエドワード」は二〇一二年に日本でも公開されています。





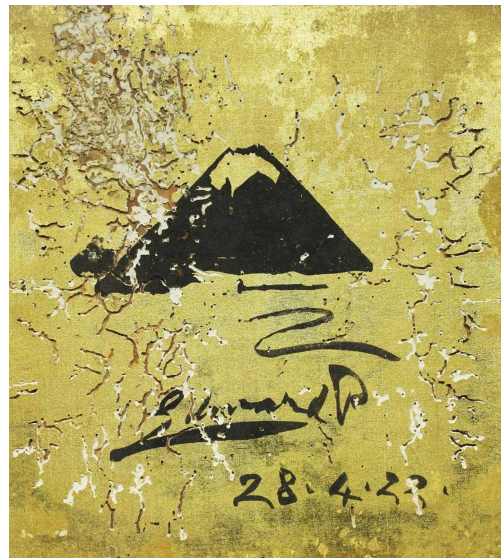
⑮「王太子殿下への贈り物のお礼」大正11年6月1日  
(堀田義次郎関係文書12)



⑬『Fine Landscapes on Lake Biwa』大正11年4月  
(堀田義次郎関係文書36)



⑯「英国皇太子殿下啓紀念帖」大正11年  
(堀田義次郎関係文書51)



⑭「エドワード筆《富士山》」大正11年4月28日  
(堀田義次郎関係文書50)

エドワードが描いた富士山

エドワードの訪問にあたり、県は敬意を表するため、湖国二十勝の画帳を作成しています。知事の依頼により、県内の景勝地が滋賀郡中庄村（現大津市）出身の画家・山元春拳と、その門人の山元春汀、柴田晩葉、足田春湖の手で、特別に描かれています。

史料⑯は、英語で記されたその解説書で、「The Autumn Moon of Isiyama」（石山の秋月）や「The Evening View seen from the Seta Bridge」（瀬田の夕照）等の見所が説明されています。

史料⑭は、エドワードの署名とともに、来県した日付が記された富士山の絵です。船上で堀田知事が奉迎文を読み上げ、画帳を献上した際に、下賜されたものと見られます。五月八日に式部官渡辺直達が堀田に宛てた書簡によれば、この富士山の絵は、少なくとも二枚は描かれたようで、それぞれ珍田接伴官と渡辺式部官に送られています。堀田が所蔵していたこの絵は、その他に三枚目が描かれたか、珍田が堀田に譲ったものと考えられます。

史料⑯は、エドワードの訪問を記念して県が作成した写真帳です。湖国二十勝の画帳に収められた絵と解説の写真等が掲載されています。エドワード帰国後の大正十一年七月、県会議員や郡長、新聞社などに贈られました。写真とはいえ、本県を代表する画家・山元春拳らが描いた湖国の情景をうかがうことができ、美術史的にも貴重な一冊といえます。





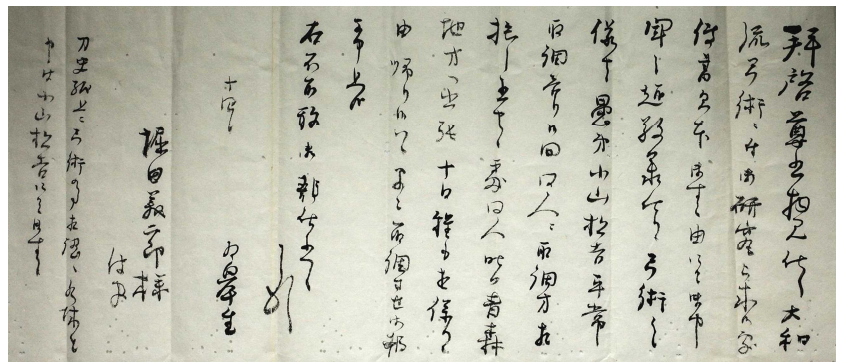
⑱『金剛』（堀田義次郎関係文書 52）



⑲「堀田義次郎の肖像写真」（堀田義次郎関係文書 8）



⑳「堀田義次郎顕彰像の写真」昭和 59 年 10 月  
(堀田義次郎関係文書 45, 46, 48)



㉑「大和流弓術の調査依頼に関する書簡」  
(昭和) 12 年 7 月 14 日 (堀田義次郎関係文書 37)

## 第一六代知事堀田義次郎

第一六代滋賀県知事の堀田義次郎は、明治七年（一八七四）四月十四日、福岡県で生まれました。同三十五年（一九〇二）に東京帝国大学を卒業し、三十七年に文官高等試験に合格。内務省入省後は、愛媛県書記官をはじめ、三重・滋賀・愛知各県の内務部長などを歴任しました。政友会系の内務官僚として知られ、大正八年（一九一九）四月に原敬内閣が発足すると、滋賀県知事に任じられ、同十二年十月まで務めました。

堀田義次郎は、弓道家としても著名な人物で、昭和十一年（一九三六）五月に大日本武徳会から弓道範士号を授与されています。同八年五月、同会が全国的な射法統一を図るため、「弓道型調査委員会」を設立した際には、委員二十七名の一人に選ばれました。

本書簡は、雑誌『刀剣と歴史』を刊行する高瀬羽草（真卿、社会事業家）が堀田に宛てたもので、依頼のあった大和流弓術の調査を、弟の小山松吉（貴族院議員、弓道家）に託した旨を伝えています。

堀田は知事を退任した翌年の大正十三年五月、衆議院議員総選挙に三重県第一区から出馬して当選。衆議院議員を一期を務めました。その後は昭和八年より大津市長を三期務め、名所旧蹟の整備拡充に取り組んでいます。石山寺門前に二四〇〇坪の公園を新設し、桜・楓・つつじ等を植栽して、同寺の美観保持に努めました。昭和五十九年十月には、その功績を記念して、顕彰像が石山寺に建立されています。







【展示関連年表】

西暦	元号	月	日	出来事	展示史料
1874	明治7	4	14	堀田義次郎が福岡県で生まれる	
1879	明治12	2	4	イギリスのリード議員が滋賀県を訪れる	①
		4	15	内堀助長ら6名が外国貴紳接待掛に任じられる	②
		7	3	グラント米国前大統領が来日（コレラ流行のため滋賀県は訪れず）	③④
1891	明治24	3	23	矢島新之助ら6名が露国皇太子殿下下接伴掛に任じられる	⑤
		5	11	ロシア皇太子ニコライをもてなすため県庁舎で物産品が陳列される ニコライが津田三蔵巡査に斬り付けられる（大津事件）	⑥
1892	明治25	2	5	「露国皇太子殿下御遭難記事」の編纂が始まる	⑦
		12	—	同記事の稿本が完成。「当庁ノ記録」として活用される	
1894	明治27	6	23	エドワード8世が生まれる	
1919	大正8	4	18	堀田義次郎が滋賀県知事に任じられる	⑩
1921	大正10	5	7	裕仁親王（昭和天皇）がイギリスを訪れる	
1922	大正11	4	28	イギリス王太子エドワード（エドワード8世）が滋賀県を訪れる	⑨～⑭
		6	1	エドワードの秘書官が献上品のお礼状を認める	⑮
1923	大正12	10	25	堀田義次郎が県知事を退任する	
1933	昭和8	6	21	堀田義次郎が大津市長に就任する	
1935	昭和10	4	15	満州国皇帝溥儀が滋賀県を訪れる	⑳㉑
		4	16	溥儀が15万円を日本政府に寄付する	㉒
1936	昭和11	1	20	エドワードがイギリス国王として即位する	
		5	—	堀田義次郎が大日本武徳会から弓道範士号を授与される	⑰
		12	11	エドワード8世がイギリス国王を退位する	
1937	昭和12	5	4	エドワードとウォリスが結婚する	
1940	昭和15	7	2	溥儀が再度滋賀県を訪れる	㉓
	昭和30代	—	—	ゲオルギオス妃マリーが滋賀県を訪れる	⑧
1984	昭和59	10	5	堀田義次郎の顕彰像が石山寺に建立される	⑲
2019	平成31	4	26	「堀田義次郎関係文書」が滋賀県に寄贈される	

\*ゴシック体は、エドワード8世と堀田義次郎に関わる事項

展示図録 外国貴賓のおもてなし  
令和元年（2019年）7月29日

編集・発行

滋賀県県政史料室

〒520-8577

滋賀県大津市京町四丁目1番1号

滋賀県庁新館3階 県民情報室内

Tel : 077-528-3126

Fax : 077-528-4813

Mail : kenmin-j@pref.shiga.lg.jp



「日本服の英国皇太子及び其の一行」

（堀田義次郎関係文書 44）